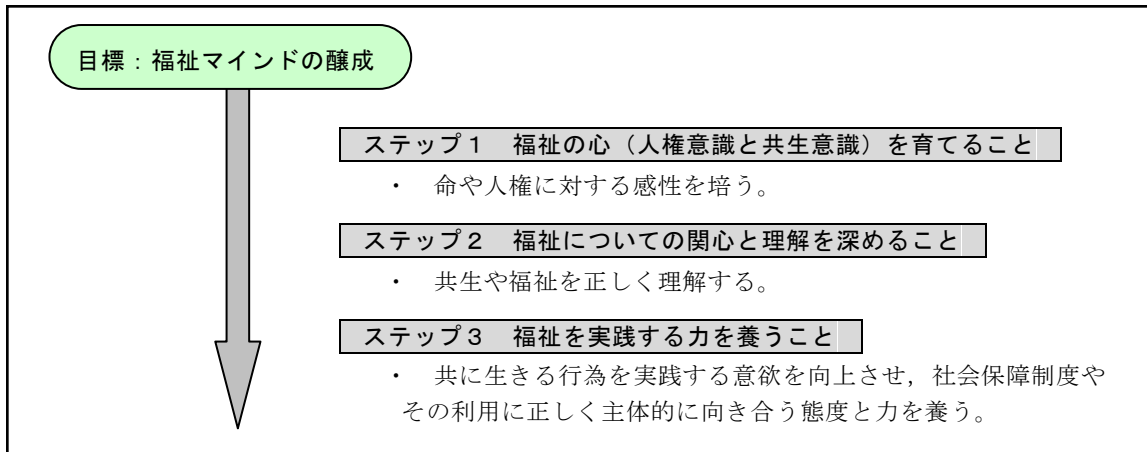


# 福祉教育

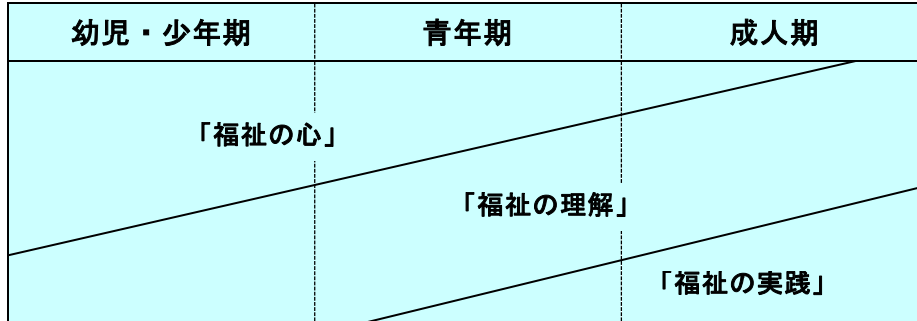
福祉教育とは、「人間尊重の精神を基盤に、一人一人が自分も他人も人間として共に生きる大切さを理解し、人間がより人間らしく生きる福祉社会を形成していく能力や態度を育てる」教育である。

【図】福祉教育の目標と展開



（参考：社会福祉法人 広島県社会福祉協議会 「福祉教育推進の手引」から）

### 1 発達段階に応じた福祉教育の展開



（参考：社会福祉法人 広島県社会福祉協議会 「福祉教育推進の手引」から）

### 2 福祉教育を通じて育てたい資質や能力

- 生命の大切さを知るとともに、互いを尊重する心と態度
- 社会福祉についての理解と関心を高め、実践しようとする能力と態度
- 日常生活の中で、相互扶助の精神を実践する能力と態度
- 社会連帯の意識を高め、共に生きる社会を創っていこうとする心
- 主体的・自主的に力強く生きようとする自立心

### 3 福祉教育の指導のポイント

#### 体験的な学習を重視する

- 学習指導要領に則り、児童生徒の発達段階を考慮し、体験的な学習や問題解決的な学習を取り入れ、児童生徒の主体的な学習活動となるよう工夫する。
- 「共生・共存」、「地域社会」、「直接体験」及び「感性」をキーワードとしながら、命や自然・文化との出会い、家族や仲間、地域の人々との交流、地域の高齢者や障害のある人たちとの交流と理解・支援など、身近にある様々な活動を入り口として取り組む。
- 地域の関係機関や関係団体との連携を図り、活動の場を広げる。

#### 実践的な態度や能力の育成を図る

- 単なるイベントの実施や単発的な社会福祉施設訪問などではなく、日常的・継続的な取組を行い、福祉に対する正しい理解や実践する態度を育てる。
- 従来福祉に関わる課題（地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉）に限らず、国際援助活動や環境保護活動なども学習の対象とする。
- 地域の社会福祉協議会、高齢者施設などの福祉施設、地域のボランティア活動に取り組む人々などとの連携を図り、生涯学習の視点を重視しながら、学校教育以外でも継続・発展できるように配慮する。

### 4 指導上の留意点

#### (1) 福祉教育の位置付けの明確化と全校で取り組むための体制づくり

- ・ 学校教育目標や各教科等との関連を図った全体計画を作成する。
- ・ 福祉やボランティアについて正しく理解するために、校長を中心として、全教職員が指導内容や指導方法について研修の機会をもち、教職員間での共通理解を図る。

#### (2) 地域と協力・連携するための体制づくり

- ・ 地域の実態や地域社会での取組を十分把握する。
- ・ 学校の計画する活動は、地域で行われている福祉活動と連携することでより効果的なものとなる。計画段階から、社会教育関係者、福祉関係者、地域の関係者などと連携し、共に考えていくという姿勢を大切にするとともに、福祉教育について日常的に連携・協力していく体制づくりを行う。

参考：社会福祉法人 広島県社会福祉協議会 「福祉教育推進の手引」  
社会福祉法人 全国社会福祉協議会・全国ボランティア活動振興センター  
「学校における福祉教育ハンドブック」